

加藤久雄教授略歴

学歴

一九六一年 愛知県立旭丘高校卒業

一九六六年 慶應義塾大学法学部（通信課程）卒業

一九六八年 慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程修了

一九七一年 大阪大学大学院法学研究科博士課程単位取得中退

一九七五―七七年 Alexander von Humboldt財団奨学生としてミュンヘン大学法学部法哲学研究所・犯罪学・刑法研究所に留学

一九九六年 ケンブリッジ大学法学部に短期留学（6カ月）

職歴

一九七一―七二年 日本学術振興会奨励研究員

一九七三年 慶應義塾大学法学部専任講師

一九七九年 慶應義塾大学法学部助教授

一九八四年 慶應義塾大学法学部教授、現在に至る

一九八四―八五年 ミュンヘン大学法学部専任講師

一九八八年 ブレーメン大学社会学部客員教授

一九九五―九六年 ミュンヘン大学法学部客員教授

一九九一―九九年 司法試験審査委員 (刑事政策)

一九九一―九九年 法制審議会刑事法部会幹事

一九八六―九六年 上智大学法学部非常勤講師 (刑事政策担当)

二〇〇一―〇五年 中央大学法学部非常勤講師 (医事法担当)

二〇〇四年 弁護士登録

二〇〇六年 獨協大学法学部非常勤講師 (刑事政策・医事法担当)

賞罰・学会・研究活動等

『治療・改善処分の研究』(一九八一年、慶應通信)で、慶應義塾賞を受賞、法学博士を取得。『人格障害犯罪者と社会治療』(二〇〇二年、成文堂)で、日本犯罪学会賞を受賞。

日本犯罪学会 (国際担当理事・総務担当理事)、日本精神保健福祉学会 (常任理事)、日本生命倫理学会 (評議員)、日本刑法学会、国際司法精神医学会に所属。

私は、この三〇年間のうち約六年ほどドイツとイギリスを中心にヨーロッパに滞在し、現場主義をモットーに研究活動をしてきた。一九八四年には、西ドイツ連邦議会法務委員会の参考人として「危険な常習犯罪人に対するドイツ刑法改正案における社会治療処分の立法化の是非」について参考意見を述べた。また、衆議院法務委員会「監獄法改正」問題、法務省推薦の参考人として参考意見を述べた。

加藤久雄教授主要業績

【著書】

『犯罪学二五講』

共著 慶應通信 一九七三年

『治療・改善処分の研究』

慶應通信 一九八一年

▽本書では、精神障害犯罪者の犯罪原因、刑事責任能力、犯罪対策、犯罪者処遇について、主に、旧西ドイツにおける状況との比較的研究を中心に論述。

本書で慶應義塾賞を受賞、法学博士を取得。

『犯罪者処遇の理論と実践』

教授資格論文 慶應通信 一九八四年

▽本書では、日本を含めて世界各国の刑事施設、精神病院など二〇〇回以上の見学で得た情報を中心に常習犯罪、精神障害犯罪、女性犯罪、青少年犯罪、薬物犯罪などについて、その原因・処遇・対策について論述。

『刑事政策学入門』

立花書房 一九九一年

▽本書の特徴は、犯罪の原因と対策をつねに関連させて論じているところにあるので、犯罪原因についても論述している。特に、「犯罪者処遇モデルと犯罪者の分類」と「各種犯罪類型に対応する『犯罪者処遇モデル』の開発」において犯罪原因についても言及している。

『組織犯罪の研究——マフィア、ラ・コzza・ノストラ、暴力団の比較研究』

成文堂 一九九二年

▽本書は、「組織犯罪」研究のため一五カ国の組織犯罪対策課を訪問し得た情報を中心に論述したものである。本書の後半部分は、我が国の暴力団犯罪の原因・対策と暴力団犯罪者の処遇・社会復帰につき論述した。

『暴力団』(岩波ブックレット no. 323)

岩波書店 一九九三年

▽本書は、政治家と暴力団の癒着の問題から「暴力団犯罪」の原因と対策につき論じた。

『刑事政策学』

慶應通信 一九九五年

▽本書は、慶應義塾大学の通信教育部の教科書として書き下ろしたもので、前半部分は、生物学的犯罪原因について論述している。後半部分は、犯罪対策について論述している。

『ボーダーレス時代の刑事政策』

改訂版 有斐閣 一九九九年

▽本書は、法学教室一九九三年四月号—一九九四年三月号に連載された一二本の論文に新たに「精神障害者」、「暴力団犯罪者」、「少年犯罪者」に関する三本の論文を加えたものである。

『医事刑法入門 (Guide to Medico-Criminal-Law)』

改訂版 東京法令出版 一九九九年

『人格障害犯罪者と社会治療』

犯罪学会賞受賞 成文堂 二〇〇二年

『ポストゲノム社会における医事刑法入門 (Guide to Medico-Criminal-Law)』

新訂(補正)版 東京法令出版 二〇〇六年

▽これは旧版(一九九九年)の三分の二以上にわたり加筆・補正したものである。

『人格障害犯罪者処遇の比較法的研究——社会治療モデルを中心にして——』(法学研究叢書)

執筆中

▽拙著『犯罪者処遇の理論と実践』(慶應通信)を一九八四年に出版して以来約二〇年が経過し、同書もすでに絶版になっている。この拙著の中心テーマの「人格障害犯罪者に対する社会治療処遇モデル」は、ドイツの一九九八年の刑法改正・行刑法改正で復活した。また、著者は、この拙著で扱ったオランダの「人格障害者」のための保安病院(TBS)のMeestadkliniekを二〇〇六年六月約三〇年ぶりで訪問したが、処遇思想、政策、処遇プログラムのすべてにおいて激変しており、国際比較刑事政策の現場主義の重要さを痛感した。特に、このドイツ・オ

ランダをはじめEU二五カ国は、死刑制度を廃止を前提にした刑事政策を推進している。本書の基本的内容も死刑制度廃止を前提にした刑事政策論が中心になっている。

著者は、平成一七年度・一八年度の科研費で「日欧における処遇困難受刑者に対する処遇プログラムの国際比較法研究」を実施したので、その比較研究で訪問した施設の最新の資料と施設写真などを取り入れた国際比較法的内容の叢書に仕上げたい。

この約三〇数年にわたり扱ってきたこのテーマに関する論文数も一〇〇本を超えるが、その中から約二〇本を厳選して、上記国際比較法的視点から、書き下ろしの論稿も加え、全面的な補筆・加筆・修正をした内容にした。また、このテーマに関する英独文八本を加え、国際比較法的視点からの論述にして国際会議の参考文献になるような内容にしていきたい。

【邦文主要論文】

「犯罪性精神病患者者の処遇に関する一考察——城野医療刑務所、宮崎刑務所における実態調査の経験を中心として——」

『刑法雑誌』一八卷一・二号一六五—一九六頁 一九七一年

「刑罰の執行および消滅」

木村亀二編『判例による刑法入門』（青林書院）三六九—三八〇頁 一九七二年

「犯罪性精神病患者者の刑事責任能力に関する一考察（上）（中）（下）——主として犯罪性精神病質傾向をもつXYY症候群患者の刑事責任能力を中心にして——」

『判例タイムズ』二八八号四〇—四六頁、二八九号一三—二二頁、二九二号三三—四五頁 一九七二年

「社会治療処分」

宮澤浩一・西原春夫共編『刑事政策講座第三卷』（成文堂）一二三—一五〇頁 一九七二年

「社会治療処分制度について」

『犯罪学雑誌』四〇巻一号三三—三八頁 一九七四年

「祈禱性精神病者の刑事責任能力」

『判例タイムズ』三一〇号一〇五—一一四頁 一九七四年

「改正刑法草案の総合的検討——姦淫の罪——」

『法律時報』四七巻五号二一八—二二二頁 一九七五年

「わが国における精神障害者法制の歴史的考案——主に明治維新以降における法制を中心にして」

『法律時報』四七巻八号二五—三三頁 一九七五年

「犯罪性精神障害者の処遇について」

澤登俊雄・所一彦共著『市民と刑法』（大成出版）一二八—一三九頁 一九七五年

「不定期刑と保安処分」

宮澤浩一・大谷實共編『刑法総論』（青林書院）三二六—三四二頁 一九七六年

「ヨーロッパにおける犯罪者処遇の新しい断面」

『三色旗』二一七頁 一九七八年

「西ドイツにおける刑事政策の一断面——社会治療施設に関する専門家会議と少年裁判所会議の動きを中心にして」

—

『犯罪社会学研究』三号二〇七—二一三頁 一九七八年

「新しい生物学的方法による理論」

宮澤浩一・藤本哲也共編『新講犯罪学』（青林書院）一二九—一四二頁 一九七八年

「責任能力——法と精神医学——」

『現代刑法講座第二卷』（成文堂）二五三―二七六頁 一九七九年

「オランダにおける性格異常（精神病質） 犯罪者に対する保安処分制度——とくにメスタク・クリニックでの社会治療 処遇を中心にして——」

『法学研究』五三卷一二号一一―一三九頁 一九八〇年

「デンマークにおける刑事政策の新展開——主に行刑制度の現状を中心にして——」

『法学研究』五三卷一二号二二―二六三頁 一九八〇年

「西ドイツにおける社会治療モデル施設の現状と問題点について」

『刑法雑誌』二三卷三・四号一九九―二六八頁 一九八〇年

「西ドイツにおける社会治療処分制度の動向」

『判例タイムズ』四一三号四〇―四一頁 一九八〇年

「西ドイツにおける精神障害者に対する強制収容法の運用状況と問題点」

大谷實・中山宏太郎共編『精神医療と法』二五三―二八五頁 一九八〇年

「ミュンヘンにおける『刑罰に代わる社会奉仕労働』について」

『家裁月報』三二卷九号一―二八頁 一九八〇年

「精神障害犯罪者に対する法的処遇」

『ジュリスト』七四〇号五五―六七頁 一九八一年

「精神障害犯罪者の処遇について」

『法律のひろば』三四卷二号二八―三七頁 一九八一年

「精神障害犯罪者に対する治療処分に関する一考案」

『Law School』三六号四六―五四頁 一九八一年

「精神障害犯罪者に対する保安処分の問題点」

大塚仁・福田平共編『刑法総論Ⅱ』（有斐閣）二七二―二八九頁 一九八二年
「薬物乱用犯罪に対する刑事政策——特に西ドイツにおける状況を中心にして——」

『罪と罰』二〇巻一号二九―四四頁 一九八二年
「刑罰と保安処分との関係——とくに治療処分との関係を中心にして——」
『ジュリスト』七七二号二九―三八頁 一九八二年

「現代日本の刑罰論に関する調査研究（共著・刑罰論研究会）」

『刑法雑誌』二四巻三・四号一五一―一七四頁 一九八二年

「刑事責任能力論における基本問題」

『Law School』五一号一四―一九頁 一九八二年

「責任能力について」

『法務省委託調査』四六―九一頁 一九八二年

「刑法と性表現——わが国における猥褻性判断基準を中心にして——」

『現代刑法講座五巻』（成文堂）一三三―一六八頁 一九八二年

「新しい犯罪処遇論序説——とくに精神病質（性格異常）犯罪者に対する処遇モデルに対して——」

『慶應義塾創立一二五年記念論文集（法学関係）』二八一―三〇七頁 一九八三年

「政治と女性犯罪——日独女性テロリストの比較研究——」

中谷瑾子編『女性犯罪』（立花書房）二一六―二三四頁 一九八七年

「西ドイツにおける精神障害犯罪者に対する『精神病院収容処分』執行法に関する諸問題」

『法学研究』六〇巻二号 一九八七年

「刑事政策的視点による死刑廃止への一考察」

「西ドイツにおける『犯罪者処遇』の動向について」

『法学研究』六一巻二号 一九八八年

「処遇困難者」の処遇——欧米における五つの特殊病院（施設）における処遇の実態とその問題点」

『罪と罰』二六巻三号 一九八九年

『日精協誌』九巻一〇号一九九頁以下 一九九〇年

「刑事法学的視点からみた『脳死論』の諸問題」

『法曹時報』四二巻一号一—二二頁 一九九〇年

「堕胎罪」

大野真義・墨谷葵編著『要説刑法各論』（改訂版、嵯峨野書院）四五—五九頁 一九九〇年

「青少年向『有害』出版物等に対する法的規制の問題点」

『警察研究』六二巻一一号一二号一頁以下 一九九一年

「責任能力判断と刑事治療処分の関連性について」

『刑法雑誌』三一巻四号五一—三頁 一九九一年

「『刑事責任能力』をめぐる諸問題——最近の日本、西ドイツにおける実務と学説を中心にして——」

『慶應義塾大学法学部開設百年論集』一七九頁 一九九一年

「『社会奉仕命令』導入に関する諸問題——非行・犯罪少年に対する適用を中心にして——」

『罪と罰』二九巻四号七頁 一九九二年

「精神障害犯罪者に対する刑事法上の諸問題」

第八回精神研国際シンポジウム 一九九三年

「『ヒト初期胚』に関する法的諸問題」

『福田平・大塚仁博士古稀祝賀』（有斐閣）二四九—二七四頁 一九九三年

「ドイツにおける精神障害犯罪者に対する行状監督制度について」

『犯罪と非行』 九八号二〇―四一頁 一九九三年

『精神障害』 犯罪者に対する起訴猶予処分の再検討」

『法と精神医療』 六号二八頁 一九九三年

「精神障害犯罪者の処遇における法と精神医療——『刑事治療処分』導入論の視点から——」

中谷陽二編『精神障害者の責任能力——法と精神医学の対話——』（金剛出版）二九〇―三一頁 一九九三年

「ドイツにおける精神障害犯罪者に対する行状監督制度について」

『犯罪と非行』 九八号二〇―四一頁 一九九三年

『精神障害』 犯罪者に対する起訴猶予処分の再検討」

『法と精神医療』 六号二八頁 一九九三年

「政治とテロリズム」

『イメージ』 五巻五号二二八―二三五頁 一九九四年

「犯罪被害者の人権」

『犯罪と非行』 一〇〇号記念号九九―一二八頁 一九九四年

「エイズ対策と刑法」

『第一回日本医学会特別シンポジウム記録集』 七五頁 一九九四年

「精神障害犯罪者の人権保護——リーガル・モデルかメデイカル・モデルか——」

西山詮編『精神障害者の強制治療』（金剛出版）七八頁 一九九四年

「『社会奉仕命令』導入に関する諸問題——非行・犯罪少年に対する適用を中心にして——」

『罪と罰』 二九巻四号七頁 一九九四年

「女子と非行——女性『性』と非行・犯罪をめぐる社会的要因との関連について——」

宮本忠雄監修・油井邦雄編集『女性性の病理と変容』（新興医学社）一〇四—一二七頁 一九九四年
「犯罪学理論の流れ——主に生物学的犯罪原因論について——」

宮澤浩一・藤本哲也・加藤久雄編『犯罪学』（青林書院）七三—九二頁 一九九四年
「組織犯罪対策は万全か——阪神大震災は暴力団対策に何をもたらすか——」

『季刊社会安全』一六号二—一頁 一九九四年
「刑事責任能力論と精神障害犯罪者処遇論の現代的課題について」

『刑法雑誌』三六卷一号三八—四八頁 一九九六年
「死刑代替論について」

『法学研究』六九卷二号一二三頁以下 一九九六年
「イギリスとドイツにおける刑事施設の現状とその問題点——ヒューマン・ライツ・ウォッチ・レポートとの比較を中心にして——（その1）」

『刑政』一〇八卷四号二四—三六頁 一九九七年
「イギリスとドイツにおける刑事施設の現状とその問題点——ヒューマン・ライツ・ウォッチ・レポートとの比較を中心にして——（その2）」

『刑政』一〇八卷六号三四—四三頁 一九九七年
「触法行為を侵した精神障害者の治療と人権——措置入院制度の違憲性と刑事治療処分制度の導入について——」

『精神医学と法』二二卷 一九九七年
「精神鑑定…刑事学の立場から——日独刑事精神鑑定の比較を中心にして——」

『こころの科学』七五号二九頁 一九九七年
「触法行為を侵した精神障害者の治療と人権——措置入院制度の違憲性と刑事治療処分制度の導入について」

『臨床精神医学講座』二二卷三四五頁 一九九七年

「わいせつ、姦淫及び重婚の罪」

大塚仁・川端博編『新判例コンメンタール刑法第五卷』（三省堂）一一一—一〇頁 一九九七年

「刑事責任能力論と触法人格障害者処遇論の現代的課題について——とくに、ドイツにおける人格障害犯罪に対する

『社会治療処遇論』復活を中心に——」

『産大法学』（京都産業大学）三三卷二・三号一一一—一二七頁 一九九八年

「責任主義の危機と刑事制裁二元制論について——触法精神障害者の刑事法上の処遇制度を中心にして——」

『西原春夫先生古稀祝賀論文集第四卷』（成文堂）二八二頁 一九九八年

「ドイツにおける触法精神障害者の強制入院治療と社会復帰」

『法と精神医療』一二号四八頁 一九九八年

「触法精神障害者に対する『措置入院』制度の法的諸問題——刑事治療処分制度の導入に向けて——」

『精神病院協会誌』一七卷二号三四頁 一九九八年

「ドイツにおける凶悪『性』犯罪に対する法的対応」

『季刊社会安全』二八号二頁 一九九八年

「触法精神障害者に対する『措置入院』制度の法的諸問題——刑事治療処分制度の導入に向けて——」

『精神病院協会誌』一七卷二号三四頁 一九九八年

「組織的犯罪対策法の実体法的側面——加重処罰、マナー・ローンダリング、収益の没収等——」

『現代刑事法』七号四七頁 一九九九年

「『死刑存廃論』の人道的刑事政策論的再検討——代替刑による廃止か世論重視の存置か——」

『宮澤浩一先生古稀祝賀論文集第二卷』（成文堂）三三頁 二〇〇〇年

「特集…終身刑」…「ポストゲノム時代の『無期自由刑』のあり方について——ドイツにおける死刑に代わる『無期自由刑』と社会治療処遇モデルの復活から学ぶもの——」

『犯罪と非行』一四〇号五〇—八〇頁 二〇〇〇年

「わいせつ犯罪と刑事政策——成人ボルノ解禁と幼児ボルノ厳禁について——」

『現代刑事法』一一号三七—四七頁 二〇〇〇年

「医事刑法の学問的枠組み」

『現代刑事法』一四号五頁以下 二〇〇〇年

「新『臓器移植法』における問題点の検討——『法の見直し』への若干の提言——」

『大野真義先生古稀論集』（世界思想社）三七五頁 二〇〇〇年

「臓器売買の犠牲のために抹殺される子供たち（１）・（２）・（３）」

『トップ・ジャーナル』一〇・一一・一二月号七八頁以下 二〇〇〇年

「ドイツにおける治療・改善処分と司法精神医学教育の現状から何を学ぶか——ミュンヘン大学ネドビル司法精神医学教授の来日講演を中心にして——」

『季刊社会安全』四〇号 二〇〇一年

「死刑の代替刑について」

『現代刑事法』二五号五月四八頁 二〇〇一年

「現行措置入院制度による触法精神障害者処遇の現状と課題について——高度に危険な人格障害犯罪者に対する刑事法上の対応を中心にして——」

『現代刑事法』二九号六四—七七頁 二〇〇一年

「触法精神障害者対策の現状と問題点（２）——ドイツ編——」

『現代刑事法』四一号七二頁 二〇〇二年

平成一七・一八年度科学研究費「日欧『矯正領域における処遇困難者に対する処遇システム』に関する比較法的研究」の研究冊子五〇〇頁——総括…から学んだこと…「触法精神障害者と精神障害犯罪者に対する刑事法上の対応に

ついで——とくにドイツにおける『処遇困難』人格障害犯罪者に対する『社会治療処遇』モデルの復活を中心にして——」

二〇〇二年の犯罪学会賞を記念して行った講演「高度に危険な人格障害犯罪者に対する刑事法上の対応について」

『犯罪学雑誌』六八巻三号二〇〇二年七八—九二頁 二〇〇二年
「触法精神障害者処遇の在り方——医事刑法学の立場から——」

『現代刑事法』四二号三〇—三九頁 二〇〇二年
「人格障害と司法精神医学——人格障害犯罪者の刑事責任能力と社会治療処遇——」

『精神科』三巻四号三五—三六二頁 二〇〇三年
「二一世紀のわが国における矯正処遇を展望する」

『刑政』一一四巻四号一八—二八頁 二〇〇三年
「臓器不足と生体間移植にみる日本人の生命倫理——脳死反対論と生体間移植推進論批判を中心にして——」

『教養論叢』（慶應義塾大学）一二二号—一二五頁 二〇〇四年
「ポストゲノム時代の『無期自由刑』のあり方について——ドイツにおける死刑に代わる『無期自由刑』と社会治療処遇モデルの復活から学ぶもの——」

『犯罪と非行』一四〇号五〇—七九頁 二〇〇四年
「ポストゲノム社会の『高度に危険な人格障害犯罪者』に対する刑事政策は如何にあるべきか——新『心神喪失者等医療観察法』と『高度に危険な人格障害犯罪者』に対する新しい刑事制裁制度に関する比較法的考察を中心として——」

『法学研究』七七巻四号一頁以下 二〇〇四年
「確信犯人の処遇に関する比較刑事政策論序説——九・一一テロ事件以降の『テロリズム』の変化と政治的確信犯人に

対する刑事政策的対応を中心にして——」

『法学研究』七七卷一二号二四三—二九六頁 二〇〇五年
「医事刑法の立場からみた司法精神科医の役割と課題——特に、裁判員制度における触法精神障害者の重大事件に関する鑑定業務について——」

内俊雄・山上皓・中谷陽二編『司法精神医療』（中山書店）一〇〇—一一〇頁 二〇〇六年
「国際司法精神保健学会参加とオランダ・メスタク・クリニック（TBS施設）の管見」

『犯罪学雑誌』七三卷一号 二〇〇七年
「日独テロリストの処遇に関する比較刑事政策的研究——ドイツにおける『テロ事件』の変遷過程と九・一一以後の変化について——」

『法学研究』 寄稿予定

【欧文主要論文】

Eine Skizze über die Schuldfähigkeit von kriminellen Psychopathen- Besonders über die kriminelle Schuld-fähigkeit von XYY-Syndrom- Kranken mit psychopathischem Charakter-, KEIO LAW REVIEW, 1978, S.59ff.

Katoh, Hisao und Driebold, Rolf (1983): Das Staatsgefängnis Ringe, Tendenzen des Strafvollzuges in Dänemark, in: Driebold, R. (Hrsg.): Strafvollzug, Erfahrungen, Modelle, Alternativen, 1983, S.144ff.
Behandlung des geistig gestörten Täters- Vergleich zwischen der japanischen und deutschen Rechtspraxis, in: Philipps, Lothar und Scholler, Heinrich (Hrsg.): Jenseits des Funktionalismus. Arthur Kaufmann zum

65. Geburtstag, 1989, S.163ff.

The development of delinquency and criminal justice in Japan, in: H.-G. Heiland, Louise Schelly and Hisao Katoh (ed.): *Crime and Control in Comparative Perspectives*, 1992, pp. 70-81.

Zu politisch motivierter Frauenkriminalität-Eine Vergleichende Untersuchung über japanische und deutsche Terroristinnen. In: *Festschrift für Horst Schütler-Springorum* zum 65. Geburtstag, 1993, S.173-187.

Alternative penal sanctions in Japan. Japanese Reports for the XIVth International Congress of Comparative Law (Athens, 1994), pp. 229-237.

Prohibition of the Money Laundering as a countermeasure against Organized Crime Groups (YAKUZA or BORYOKUDAN) in Japan, *KEIO LAW REVIEW* No.7, 1994, pp. 21.

Criminal Policy for Offenders with Mental Disorder in Japan. *The Japanese Journal of Psychiatry and Neurology*, Vol.48., 1994, pp. 19-23.

Drogenkriminalität in Japan, in: Kühne, H.-H. und Miyazawa, K. (Hrsg.): *Neue Strafrechtsentwicklungen im deutsch-japanischen Vergleich*, 1995, S.331ff.

Kriminalpolitische Überlegungen neuen Formen der Jugendkriminalität in Japan, in: Fojlanty-Jost, Gesine/Rössner, Dieter (Hrsg.): *Gewalt unter Jugendlichen in Deutschland und Japan. Ursachen und Bekämpfung*, 1997, S.199-211.

Die Besonderheit und Ursache der Organisierten Kriminalität mit besonderer Berücksichtigung der BORYOKUDAN-Kriminalität und diesbezügliche kriminalpolitische Überlegungen in Japan, in: Szwarc, Andrzej/Waasek (Hg.): *Das erste deutsch-japanisch-polnische Strafrechtskolloquium der Alexander von Humboldt-Stiftung in Polen*, 1998, S.155-171.

Report on the 23rd International Congress on Law and Mental Health, Paris, France. "Patients' Human Rights

and Relief of Victims”.

Corruption in the economic world in Japan. pp. 141-155. in: Responding to the challenges of corruption. Acts of the International Conference Milan, 19-20 November 1999 (ISPAC: International Scientific and Professional Advisory Council of the United Nations Crime Prevention and Criminal Justice Programme), 2000. pp. 141-155.

Die Besonderheiten und die Ursachen organisierter Kriminalität in Japan am Beispiel der Boryoku-Dan und unter Berücksichtigung der Verflechtungen zwischen Politik, Wirtschaft und den Boryoku-Dan, in: Rüßmann, H. (Hg.). Keio Tage 1998. Beiträge zum deutschen, japanischen und europäischen Wirtschafts- und Verfahrensrecht, 2000. S.15-27. (Nomos)

Kriminalpolitische Überlegungen zur Bagatelkriminalität, insbesondere die Entkriminalisierung von Bagatelldelikten, in: Eser, A./Yamanaka, K. (Hg.), Einflüsse deutschen Strafrechts auf Polen und Japan, 2001. S. 195-205. (Nomos)

Missing Children for Organ Selling as International MAFIA-Business. Criminal Policy for the Eradication of International Organized Crimes. The New Global Security Agenda in Asia and Europe. Copenhagen Marriott Hotel, 27-28 May 2002.

Report on the 21st Cambridge International Symposium on Economic Crime: Financial Crime, Terror and Subversion. Workshop with Professor Ernesto Savona, University of Trento, Italy: “The Mafia and Terrorism.” Friday, 12th September 2003.

Human Trafficking and Organ Selling by Organized Groups, Keio Law Review, No. 10, 2004, pp. 1-13.